

中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
 子ども編の要点

PART 1 子ども編：パパママ気をつけて！
 中毒110番：防ごう子どもの誤飲事故



「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、子どもは手に触れたものを何でも口に入れるようになります。
 どのような製品で事故が起こっているのでしょうか？

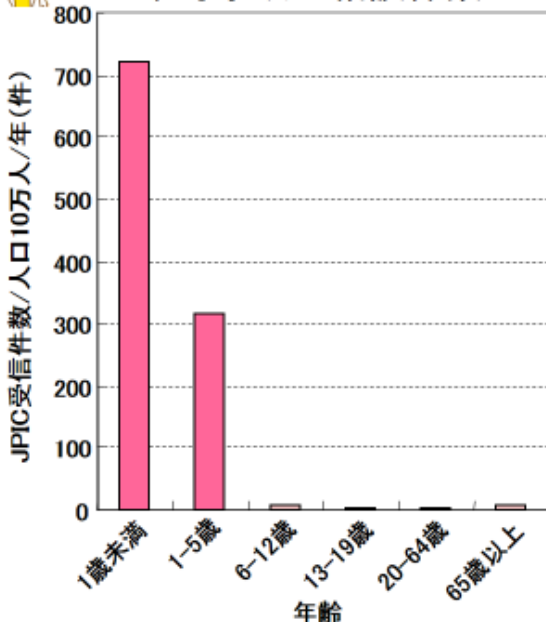
危険がいっぱい！

たばこ	くすり	化粧品	洗剤	家庭用殺虫剤
カー用品、灯油	靴クリーム、肥料	防虫剤	クレヨン、水性絵の具	

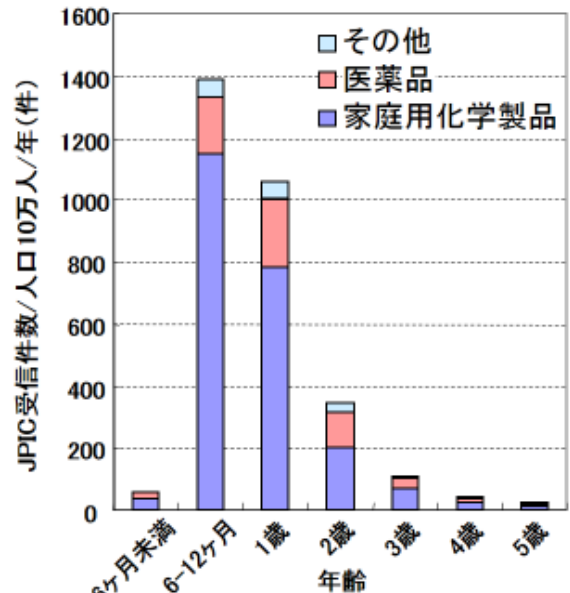
子どもの中毒事故は、1歳未満と1～5歳がほかの年齢と比べて著しく多く発生しています。
 また、中毒事故の原因となる物のほとんどは、家庭用化学製品（タバコ、洗剤・洗浄剤、殺虫剤など）と医薬品で、いずれも私たちの身近にある製品です。



患者の年齢と
 中毒事故の相談件数



子どもの中毒事故
 年齢と事故の原因となった物



(財)日本中毒情報センター受信状況より

中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
子ども編の要点



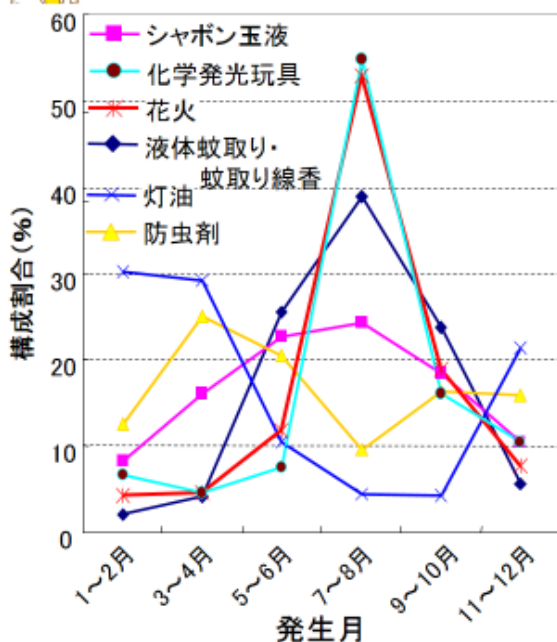
子どもの成長にともなって、起こりやすい中毒事故も異なります。
年齢別に起こりやすい事故の特徴をみましょう。

年 齢	注意すべき対象(後始末や保管管理)
寝返り・「はいはい」の頃 (5カ月～1歳頃)	床や畳など、低い位置のものに注意 タバコや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体蚊取り おもちゃ代わりに持たせたオムツかぶれの軟膏や保冷剤
つかまり立ち・ よちよち歩きの頃 (1～2歳頃)	子どもの目線の高さにあるものにも注意 洗面台や流しの下洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、鏡台の化粧品、シャボン玉液などのおもちゃ
おおむね2歳以上	高い場所にも注意が必要(行動範囲が広がります) 頻りに手にするおもちゃ、 食品と似ている薬やアルコール飲料なども要注意 棚の上の救急箱、引き出しの中の薬 冷蔵庫の中のシロップ薬、流し台で漂白中のコップ 化学発光玩具、缶入りアルコール飲料

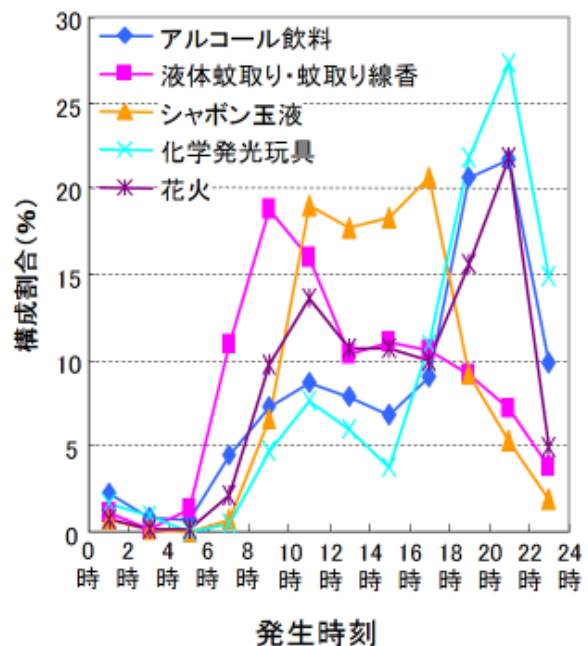
子どもは、身の回りにあるものを手に取って口に入れるので、その物を実際に
使用する季節や時刻に事故が発生します。
事故の発生する季節、時刻に特徴がある物には以下のようなものがあります。



発生月に特徴がある物



発生時刻に特徴がある物



中毒 110 番 市民向け啓発教材「みんなで防ごう！ 身近な中毒事故」
子ども編の要点



子どもの中毒事故を予防するためには、以下の5つが大切です。
「家庭内での中毒事故防止チェックリスト」で、家庭における現在の危険度を
チェックしてみましょう！

1. 使用中は子どもを意識する
2. 使った後はきちんと片付ける
3. 保管方法を工夫する
4. 対象年齢を守る
5. 危ないものを子どもに教える

「家庭内での中毒事故防止チェックリスト 子ども編」は次ページです